

令和4年度 第2回 豊田市社会福祉審議会 障がい者専門分科会 議事録

日時 令和5年1月30日（月） 午後2時00分～午後3時20分まで

場所 豊田市役所元城庁舎西棟 元城西3階会議室

出席者（委員）※敬称略

会場出席

田中 和彦、中田 繁美、小坂 繁、若子 理恵、中川 恵司、
中河 智幸、城 多加志、木村 美知子、松本 清彦、山田 幸男、
出口 咲織、永江 榮司 12名

WEB出席

伊藤 純子、谷川 博伸、山田 雄三、稲田 佑介 4名

欠席

太田 充雄 1名

- 1 開 会
- 2 福祉部長あいさつ
- 3 専門分科会長あいさつ
- 4 議題

議題1 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランに係る実態調査結果について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 ・ 施策分野6の防災・防犯の関連で BCP の策定について、市で研修を実施し、策定率が向上している点は評価できる。一方で実際の災害を想定することは難しいのが現状である。また、発災時は特にサービスを活用していない地域で暮らす障がい者をどのように支援していくかが課題だと感じる。

事務局 ・ BCP 策定支援は令和2年から研修を実施しており、今年度は事業所の個別支援も実施し、策定率向上に取り組んでいる。防災の取組に関しては、地域自立支援協議会の中に防災ワーキンググループを設け、各関係部署と連携し、福祉に関する防災の検討を進めている。サービスを利用していない障がい者が取り残されないように防災ワーキングを中心に自治区等と連携し、防災意識を高めていく。

委員 ・ 実態調査のパーセンテージの横に記載している達成、未達成の基準が不明である。

- 事務局
- ・ 今回のライフサポートプランの各施策における評価基準は、具体的な数値で示しているわけではなく、目指す方向とし、基準年の数値から少しでも良い状態になることとし、その数値が増えているのか、減っているのかで判断している。そのため、基準年である令和元年度の数値と比較し、少しでも目指す方向となる結果であれば、達成、そうでなければ未達成としている。前回会議でも御意見いただいた具体的な数字目標については今後検討する。
- 委員
- ・ 誰もが安心して自分らしく生きられる地域共生社会を目指す中で、法制度の谷間で十分に手当てがなされない人たちがいる。国では重層的支援体制を打ち出し、市でも福祉総合相談課を中心に事業を進めていると思うが、障がい者計画であるライフサポートプランを今後見直していく中で、重層的支援体制の内容も整理して記載をしたほうがよいのではないか。
- 事務局
- ・ 福祉総合相談課を中心に全国でも先進的に進めており、事業の実態としては、相談支援事業所、障がい福祉課とも連携して取組を進めている。委員指摘のとおり、ライフサポートプランでは、その内容が分かりづらいため、取組内容を整理し、次期計画を見直す中で検討していきたい。
- 委員
- ・ 実態調査の項目で、施設で暮らしたいという障がい者の割合が1割ほどいるが、その回答した人の真意はどのようなか、把握しているか。
- 事務局
- ・ 地域移行の考え方からすると、施設で暮らしたいという回答は逆の方向であるが、回答した本人の意図は分からない。地域で暮らすことは難しいと諦めているケースも考えられる。市としては、基本的な方針である地域で暮らすという考え方は変わらないので、居住支援の協議会とも連携し、障がいがあってもなくても地域で暮らしやすいまちを目指していきたい。
- 委員
- ・ 相互理解と意思疎通に関する条例の認知度が低い。この条例は、地域共生社会の土台となる条例なので、市民に周知を図るべき。
- 事務局
- ・ 条例制定時からポスターの掲示やイベントに出展等、多くの関係機関の協力を得て、啓発活動に取り組んできたが、今回の数値は残念である。実際に、条例の名称や中身は分からないが、その理念を実践している場合など、条例を意識せずに取組を進めている人も多くいる。条例の名称や内容の認知度が全てではないが、更に周知活動に力を入れていきたいと考えている。
- 委員
- ・ 情報社会の現代において、情報発信が重要だと考える。市のYouTubeチャンネルの登録者も少ないが、多様な方法での情報発信をしてほしい。

- 事務局 ・ 積極的な SNS の活用なども検討していきたい。登録者に関しては、今後も担当部署を中心に積極的な情報発信を努めていきたい。
- 委員 ・ 相互理解と意思疎通に関する条例にも関連するが、今回の調査で日常的な声かけや話し相手などに困っていると回答した障がい者の割合が意外と多い。また、近所の集まりなどで困るという割合も高く、地域の中で暮らしていく中で何らかの支障が出ているのではないかと感じる。条例の理念にもつながるが、市として、障がいの理解啓発などシステム化し、取り組んでいくべきではないか。
- 事務局 ・ 地域の住民もどう声かけしたらよいか分からないといった基本的知識がないことや、きっかけがないことによって声かけなどをためらう場合も多くあると思う。市としては、どのようにシステム化できるかは今後の検討とするが、実際に行っている心のバリアフリー推進講座において、当事者から困ることなど、本音の声を受講者に説明してもらったり、地道に理解啓発を実施していくことが有効であると考えている。
- 委員 ・ 心のバリアフリー推進講座の要約筆記の講座を聞いたが、とても良い取組だと感じた。いつでも誰でも受講できるように、この講座を YouTube に掲載するなどが有効ではないか。
- 事務局 ・ 取組を評価いただき感謝。心のバリアフリー推進講座では、障がいの特性の理解を中心に出前講座を実施しているが、そのほか障がいの特性の理解を啓発するパンフレット等も作成しており、ホームページに掲載し理解啓発を行っている。どのような形態の情報発信がよいか検討する必要があるが、心のバリアフリー推進講座を更に多くの方に受講してもらうため、宣伝いただけるとありがたい。
- 委員 ・ 医療関係について、実態調査において「特に困っていることはない」という回答が 40～50%で、医療従事者と意識の乖離があると感じる。市の考えとして、この結果で、障がい者に対する医療体制は、もう充実していると感じているのか。また、全体に通して自由記載はあったのか。
- 事務局 ・ 今回の実態調査も一つの結果として受け止めている。一方で、無作為抽出の市民 3,000 人を対象としていることもあり、この結果だけが全てではなく、現場の声も大切な要素と考えている。また、福祉部で完結できる内容ではない。そのため、今後の事業などは、関係部署等との調整の中で、調査の結果、現場の声、現事業の評価などを踏まえ、総合的に判断していくものとする。実態調査の項目で自由記載はあるが、今回の結果には、自由記載の内容までを掲載していない。

- 委員 ・ ヘルプマークの配布方法について質問する。ある事業所担当者がまとめて10枚ヘルプマークを窓口でもらおうとしたところ、お一人様1つと言われてしまったと聞いている。実際に窓口に行くことが難しい人もいる中で、どのような運用体制をとっているのか。
- 事務局 ・ ヘルプマークは、県下一斉で実施している取組で、配布は各市町村窓口で行っている。原則は、お一人様1つということで実施しているが、事情もあるので柔軟な対応は行うようにしている。
- 委員 ・ 暮らしやすいまちという部分について、就労系サービスを行っているが、国の方針もあり、障がい者の雇用は今後更に増えていくと想定される。雇用と同時に、障がい者自身の自立も重要なことと考えるが、そのためには生活を支えるグループホームの存在が重要である。しかし、豊田市内で働く人も、市内にグループホームがないことで市外のグループホームで生活しているという人もいる。地域で生活する上で、豊田市で完結できるよう、市のグループホームのあり方を伺う。
- 事務局 ・ グループホームの不足については、市としても認識しているところではある。現在、事業所数は増えているが、数の部分と同時にサービスの質も保った上で、グループホームが増加していくことが望ましい。市としてもグループホームの不足解消に向けた取組を継続して検討していきたい。
- 委員 ・ 役所の窓口で困る人の割合が増えている。これは市として反省材料の一つであるが、相互理解と意思疎通に関する条例の市民・事業者向けガイドラインは重要な事柄がまとめてあり、分かりやすい。市職員にも再度徹底してほしい。
- 事務局 ・ 相互理解と意思疎通に関する条例の市民・事業者向けガイドラインについて評価いただき感謝。市職員へは、当該ガイドラインより前に意識すべき配慮のポイントをまとめたUST(ユニバーサル市役所とよた)ガイドラインを作成し、職員に周知している。今回の調査で、役所の窓口で困る人の割合が増えているという結果になったので、障がい理解も含め、改めて周知徹底に取り組んでいきたい。
- 会長 ・ 相互理解と意思疎通に関する条例を含め、障がい理解の普及啓発、について多くの意見があった。市民意識をいかに醸成していくかが課題であると思うので、市として本日の意見を参考に次期計画や今後の取組に生かしてほしい。

5 報告

(1) 医療機関版コミュニケーション支援ボードについて

- 事務局 (資料に基づき説明)
- 委員
- ・ 薬剤師会にも作成の案の段階から何度も調整があり、意見を反映できた。特に現場では、問診表との組み合わせでこのコミュニケーション支援ボードの効果が発揮できると思う。持ち物確認の項目があることに加え、その中でも特に最近確認が必要なマイナンバーカードの項目もあるので現場は助かると思う。多言語化していることも評価でき、現場で活用されることを期待する。
- 事務局
- ・ 関係委員の皆様には何度もやりとりをさせていただき感謝。アンケート調査や障がい当事者、支援者の意見、また外国人関係や高齢者関係など幅広い意見を反映することができた。現場で活用できるものを意識して作成を進めてきたので活用していただけると幸い。
- 委員
- ・ 「どれくらい調子が悪いですか」という項目のゲージについて、「すぐく」と記載のあるほうが、すぐく調子が悪いのだと思うが、人によって分からないと感じる。「すぐく」の横に調子の悪そうな顔マークなど設けるとよいと感じる。
- 事務局
- ・ 御意見のとおり、修正する。

(2) 相互理解と意思疎通に関する条例関連 市民・事業者向けガイドライン

コミュニケーションのための10のポイントについて

- 事務局 (資料に基づき説明)
- 意見なし

(3) 配食サービス利用者負担について

- 事務局 (資料に基づき説明) ※高齢福祉課
- 意見なし

6 その他

特になし

午後3時20分 会議終了